

地域・学校・家庭を結ぶPTA活動

岩倉市立南部中学校PTA

1 はじめに

本校は岩倉市の東端に位置しており、敷地の東西には五条川と矢戸川が流れている。地域の区分としては、団地周辺の店舗のある人家の多い地域と大山寺駅に向かう比較的人通りの少ない田畑が見られる地域の2つに大きく分かれている。

生徒数は現在366名で、特別支援学級を含む13学級の中規模校である。生徒の多くが地域へ積極的に出かけボランティア活動を行い、地域の方々からも大きな信頼を得ており、長年の積み重ねで本校の大きな特色の一つとなっている。



【飛翔の鐘より臨む本館】

2 研究への取組

(1) ねらい

岩倉市では、「岩倉市教育プラン」を策定し、平成16年度より教育活動の充実・発展に努めてきた。現在は第4次「いきる」をキーワードとして各学校で工夫した取組を行っている。そうした各学校での実践活動に対し南部中学校は、PTA活動に焦点をあてている。以前にも増して、最近の仕事を持つ母親が多くなり、保護者同士のコミュニケーションの場が限定されているだけでなく、団地内には外国にルーツをもつ児童・生徒が増え、子育てに不安を感じる保護者が少なくない。こうした問題の解消の一助として、保護者同士が関わる場や学校・地域と関わる場づくりを積極的に進めている。とりわけ、南部中学校区で行う地区懇談会はPTA活動のメインともいえるものになっている。3校のPTAが協力して行うこの行事や他の活動を通し、学校・家庭・地域を結ぶ架け橋となることができるよう日々努力している。

(2) 組織と委員会の主な活動内容

役員会	広報委員会（8名）…各行事の記録、年3回発行する新聞の編集
	研修委員会（8名）…PTAコーラスの推進、社会見学の実施
	厚生委員会（9名）…バザー・制服リサイクル活動、学校保健委員会への協力
	連携委員会（9名）…あいさつ運動、校外指導、地区懇談会の運営

3 実践活動の概要

(1) 地区懇談会の開催（3校の保護者・子ども・教師と地域を結ぶ）

毎年、岩倉市では2つの中学校区で地区懇談会が行われる。この地区懇談会は、PTA事業の中でも力を入れている活動であり、平成25年度より、それまでの分科会方式を改め、児童・生徒と保護者を交えた学校行事と共催した講演会を行っている。その一端を紹介する。

開催にあたっては、3校のPTA会長と教頭が集まって、数回の話し合いをもち、小中連携や時代のニーズに即した内容で企画・運営にあっている。今年度は、キャリア学習に焦点をあて、社会人として各地で活躍している卒業生と全国で活躍している著名人を招聘して講演会を実施した。

第一部は、本校第1回卒業生の書家による書画パフォーマンスと同窓会長による対談で、生徒だけでなく来賓や保護者に対し、「目標に向かって歩み、夢を叶えること（目標達成）の大切さ」を語っていただいた。第2部は、企業の第一線で活躍しているクロフネ・カンパニー代表の中村文昭氏の講演で、「目標に向かって努力し、自分にできることを精一杯取り組むことの大切さ」を教えていただいた。

半日にわたる地区懇談会での講演であったが、参加した3校の職員・保護者・地域の方々が、互いの置かれた立場を十分理解し相互の働きかけを大切にすることで、児童・生徒のキャリア学習や健全育成の手立てを見直す機会を得ることができた。また、懇談会の内容については、「ホームページ」や「たより」に載せ周知している。

(2) PTAあいさつ運動の推進（保護者と教師・子どもを結ぶ）

連携委員会が中心となっている「あいさつ運動」は、年5回のべ14日間ではあるが、生徒たちの登校の様子やあいさつの様子を保護者が知ることができる。また、職員とのコミュニケーションも図ることができ、さまざまな情報は、家庭や地域、学校との連携に大いに役立っている。我が子や友だちの知らない面を垣間見ることもあり、つかみきれない心をもつ生徒たちへのアドバイス等を、先生方より受けることができる良い機会にもなっている。



【対談の様子】



【講演の様子】



【あいさつ運動の様子】

(3) P T A 研修視察（保護者と保護者を結ぶ）

2学期に実施するP T Aの研修視察は保護者と保護者の絆を深める大きな事業の一つである。事前準備としてP T Aの定期委員会でアンケートをとり、研修委員会が中心となって、時期・目的・場所等を決める。そして全保護者に呼びかけ、希望者を募った。今年度は38名が参加し、福井県にある「小牧かまぼこ」の工房で竹輪の手作り体験を行った。視察を通して、知らない保護者との交流や、普段できない体験ができ、参加者からは充実した一日を過ごすことができ良かったとの声が多くよせられている。

(4) P T A 広報活動（保護者と学校、保護者と保護者を結ぶ）

広報委員会では年3回、P T Aの広報誌を発行し広報活動を行っている。広報委員会では日常の生徒たちの様子や各種行事に取り組むP T A活動の様子を情宣し、理解を深めている。年3回とはいえ、発行までは何度も集まり、記事の添削や写真・イラスト等のレイアウトを調整し、保護者にP T A活動の一端をよりわかりやすいように伝えたいと心がけている。

(5) 学校行事への参加・協力（学校・家庭・地域を結ぶ）

① 体育大会

体育大会はP T A役員と委員が5つに分かれて活動を行っている。

役員が来賓受付、連携委員会は校内のパトロール及び駐輪場の整理、厚生委員会は来賓・来客の接待、研修委員会は老人席における接待、広報委員会は記録写真の撮影と取材を中心に、終日係の生徒とともにそれぞれの仕事を行っている。

この体育大会では、日頃見ることのできない生徒たちの姿を発見することができる。お年寄りを老人席へ案内する場合の丁寧な言葉遣いやいたわりの気持ちが現れる仕草、P T A役員や委員に接する態度は、日頃から様々な場所で生徒たちが行ってきたボランティア等で培われてきたものであると感じている。また当日参観された来賓や地域の方々からもお褒めの言葉を多数いただき、係の仕事を通じて、P T A役員・委員も一保護者として喜びを感じる一日となった。

地域で育てられていることを改めて実感できる行事の一つである。



【体育大会の様子】

② 学校保健委員会

厚生委員会が年2回参加、協力する学校保健委員会は、日頃の生徒たちの様子から学校側と話し合いを重ね、議題を決める。第1回は6月に実施した。「南中生の心の健康」の取組から生徒たちが毎週朝の会で行っているペアワークを保護者同士で体験した。話の聴き方、言葉の使い方一つで相手の気持ちにどう影響するかを知り、今後に生かせるものとなった。第2回は、10月に実施した。外部より講師を招聘し、コミュニケーション不足から起こりうる生徒たちの〈アンダー・マネジメント〉の数々を例に挙げながら、ワークショップを通じてどのように気持ちをコントロールすれば良いかの手立てを教えていただいた。

生徒への対応について、学校側と保護者が互いに共通の基盤で考え、話し合う機会をもつことは思春期を迎えている生徒たちにとってより良い成長につながる。このような事業を今後も大切にしていきたい。

③ 南中ふれ愛フェスティバル

南中ふれ愛フェスティバルは生徒たちの文化的な活動の場であり、仲間と協力して出し物を創りあげるクラスの団結を高める生徒会行事である。PTAとしては、保護者と保護者、保護者と地域を結ぶ事業として、制服リサイクル、DVDの販売、バザー等の開催を企画した。また、こ



こでは、研修委員を中心に練習を重ねているPTAコーラス（30余名の部員）の発表も行った。生徒の有志で構成されている有志合唱団とのコラボレーションもあり、保護者と生徒が心をつなげて歌っている姿に、ほのぼのとしたものを感じた。

【バザーの様子】

4 おわりに

南部中学校は、生徒たちのボランティア活動が活発で毎年50を超える団体から要請が入る。参加にあたっては決して強制されるわけではないが、自主的に毎回多くの生徒が参加している。資源回収から川の清掃、地域のお祭りや市内の各種行事等の手伝いと様々な活動に参加し、地域社会で育てられている。生徒たちのためにPTAとして何ができるのかを考えた時、私たち保護者も「地域」の一員としての自覚をもち、参加している生徒たちと一緒に地域に関わっていくことではないだろうか。本校のPTA活動は特に目新しいものを取り入れているわけではない。今まで活動してきた事業に加え、今後はより一層「地域」を意識し、地域で活動する生徒たちを支えていきたいと感じている。そのためにも、活動後の反省を生かしつつ、より多くの保護者に参加してもらえる事業を企画・運営することを目指したい。